

令和 5 年度 連携研究スキームによる研究 (政策研連携研究課題)
研究成果等概要報告書

研究テーマ名	国際的な食料供給リスクが我が国のフードシステムに与える影響に関する研究
政策研連携研究課題名	国際的な食料供給リスクが発生した場合の国内フードシステムにおける影響評価に関する研究
研究実施期間 (西暦)	2023 年度 ~ 2025 年度 (3 年間)
PO	村上 智明

1 研究の進捗状況等

食品供給リスクの影響を分析するために、①店舗行動②消費者行動③フードシステムの対応④経済厚生への影響評価を主軸に分析を行っているが、今年度は①②④を中心に分析を進めており、食環境と消費者行動、物価変動下での消費者の価値評価の変化については学会報告等の成果を出すことができている。③については①の分析のために取得した POS データの分析と並行してスーパーや卸売市場の行動について次年度以降に進めていく予定である。

① 店舗環境の与える食品価格転嫁行動への影響の検証

全国小売物価統計を用いておおよそのコロナ期以降の食品ごとの価格変動を調査し、特に 2022 年度以降に価格上昇幅の大きかった食品を特定するとともに、価格上昇幅の地域差が大きいことも確認した。この結果をもとに POS データ分析による重点的な分析対象品目を食用油脂・小麦粉・鶏卵に定めた。年度内に特に 2022 年から 2023 年にかけての食品価格高騰幅の店舗間の差に対する店舗立地環境の影響に関する統計分析を行うためのデータ整理に着手する。

② 食環境が与える消費者需要の価格弾力性への影響の検証

レシートデータを用いて、消費者需要の価格弾力性と食環境の関係性について統計的な検証を行った。今年度は鶏卵・コメを取り上げた。現状の分析結果では、店舗密度は消費者の需要の価格弾力性に無視しえない正の影響を持つこと、買い回りを行う消費者はより価格弾力的な購買行動を行っていることなどが明らかになっている。

③ 食料消費に対する消費者意識の変化の検証

価格上昇期に消費者の食品に求める価値がどのような変化を見せたのかを Web アンケート調査から検証した。計測には Lusk and Briggman (2009) のベストワーストスケーリングを用いた Food Values の計測を用い、2020・2021・2023 の 3 時点のデータに対して潜在クラスモデルを適用することで、消費者のタイプがどのように変化したかを検証した。

④ 食品価格変動の経済厚生への影響の推定

MHS データおよび家計調査データを用いて AIDS モデルによる食品需要関数の推定を行った。ここで得られた結果を用いて、次年度以降に 2020 年以降のコロナパンデミックやそれにともなう食品価格の変動の影響について補償変分の計算から経済厚生への影響を試算する。

⑤ 農水産物価格変動時における流通の対応の検証

野菜類・畜産品における生産者から小売価格への価格伝達の分析を行うための時系列データベース作成を行っており、試算を開始している。価格上昇時の卸売業者等のヒアリング調査についても逐次準備を進めている。

(注1) 全研究期間をとおしての研究全体の進捗状況を5行程度で簡潔に記載し、当該年度に研究を実施した研究項目ごとの進捗状況を3～5行程度で簡潔に記載すること。

(注2) 学会発表、論文発表等成果の公表状況(リスト)を添付すること。

(注3) 農林水産政策研究所のホームページで公表するため、未公表データや知的財産等に関する事項については、十分に注意して作成すること。また、公表できる内容のみを記載すること。

2 成果公表

発表者	表題	発表場所・発表誌等	発表年月
船津崇	地方の農産物直売所における販路の広域化と継続要件	農林水産政策研究所 定例研究会	2023年5月
船津崇・菊地昌弥・合掌智宏・熊本信吾	地方の農産物直売所における販路の広域化と継続要件—卸売機能を活用した首都圏業務用向け出荷のケーススタディー	日本フードシステム学会	2023年6月
船津崇・菊地昌弥	準市場型流通システムにおけるサプライチェーンの強みとその背景—JA全農青果センターの機能と組織に着目して—	『農業市場研究』	2023年6月
Nobuhiro Ito, Tomoaki Murakami	Is Demand Price Elasticity Geographically Different?: Effects of Retailer Competitive Environment and Search Behaviour on Staple Food Purchases	XVII European Association of Agricultural Economists Congress	2023年9月
Tomoaki Murakami, Nobuhiro Ito and Yuki Maruyama	Danger past, and god forgotten? Shift of food values during the COVID-19 pandemic in Japan	XVII European Association of Agricultural Economists Congress	2023年9月
伊藤暢宏・村上智明	食料品の価格弾力性の消費者異質性：食環境と探索傾向の影響の検討	農林水産政策研究所 定例研究会	2024年1月
Nobuhiro Ito, Tomoaki Murakami	Consumer Heterogeneity in Price Elasticity of Food: Examining the Impacts of Food Environment and Search Patterns	Australasian Agricultural and Resource Economics Society Annual Meeting	2024年2月